

第 1 編 総 論

第1章 高岡市の概要

第1節 本市の自然的条件

1 位置及び地勢

高岡市は、富山県の西部に位置し、東西24.5km、南北19.2km、面積209.59km²である。市域は北東部が富山湾に面し、東部は射水平野、南部は砺波の沃野に接し、庄川と小矢部川とによって生じた沖積平野が広がり、北西部の二上山から沢川に延びる西山丘陵地帯を除けば、おおむね平坦地である。

また、南部平野地帯の第四期沖積層は、その大部分が庄川扇状地を形成し、豊富で良質な地下水を包蔵している。

市街地は、市のほぼ中央に位置し、海岸地帯では日本海側の総合的拠点港伏木富山港を擁する臨海工業地帯が形成されている。

□ 高岡市の位置



2 気 候

気候は、いわゆる日本海型に属している。冬は西高東低の気圧配置が多く、北西の季節風が吹き、みぞれや雪が降ることが多い。春はフェーン現象により気温が高くなることが多い。

風向については、本市は、東西に庄川、小矢部川、北部から西部にかけての西部丘陵、東北部は富山湾、南部は庄川扇状地に連なるとい地形になっていることから、北東・南西の海陸風が年間を通じて主な風向となっている。

□ 高岡市の概要図



第2節 本市の社会的条件

1 人 口

本市の人口（令和7年3月31日現在）は、162,155人（男78,884人、女83,271人）、世帯数は71,070世帯であり、富山県西部の中核となる都市である。

2 工 業

本市は、慶長14年（1609年）に加賀前田家二代当主前田利長が現在の古城公園に城を築き、地名を詩経の一節「鳳凰鳴けり彼の高き岡に」から「高岡」と名付けた。利長没後、

一国一城令によって高岡城は廃城となったが、三代利常は、商工業の町として残すべく町人に特権を与えて産業の育成に力を注ぐなど手厚い保護を行ったことから、その後も領内屈指の商工の町として発展を続けてきた。

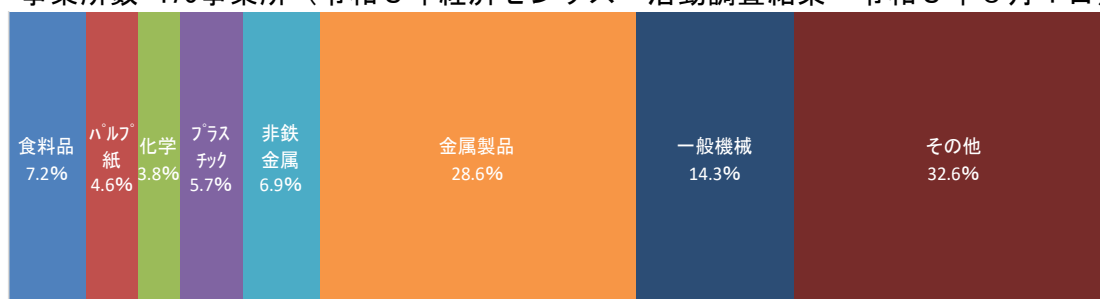
明治22年（1889年）に市町村制が実施され、全国31市の一つとして市制が施行された。その後、隣接町村との合併を重ねながら発展し、この間、藩政時代に培われた技術は、銅器、漆器などの伝統産業として栄え、さらに、捺染、ニットなどの地場産業が成長した。

また、大正末期から、豊富な電力、工業用水、港湾などの好条件のもとで繊維、紙・パルプ、化学、アルミニウム、プラスチック工業など近代産業が育ち、日本海沿岸有数の工業集積を有している。

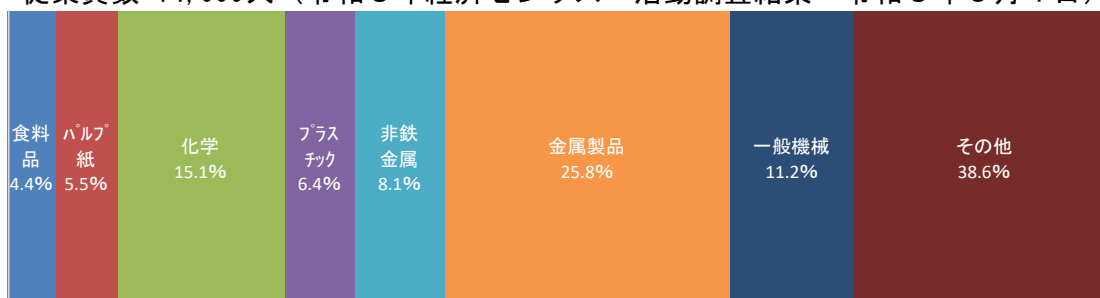
経済センサスー活動調査によれば、従業員4人以上の事業所数は475事業所で、従業員数は14,999人であった。また、製造品出荷額等は3,912億円であった。

□ 高岡市の工業の状況（令和3年経済センサスー活動調査結果）

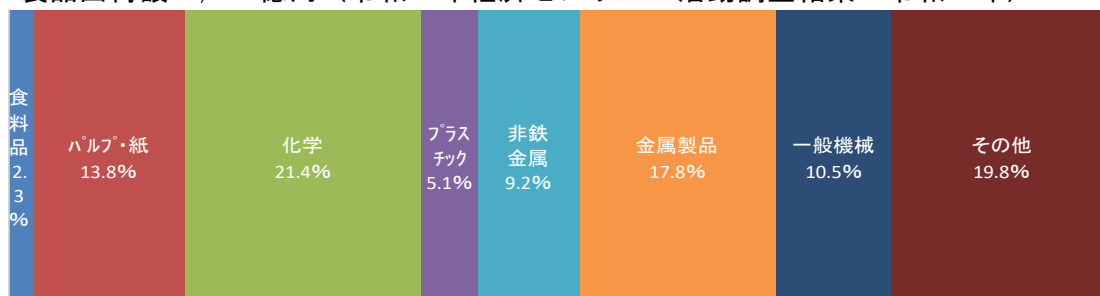
事業所数 475事業所（令和3年経済センサスー活動調査結果 令和3年6月1日）



従業員数 14,999人（令和3年経済センサスー活動調査結果 令和3年6月1日）



製品出荷額 3,912億円（令和3年経済センサスー活動調査結果 令和2年）



3 土 地 利 用

本市の市域面積は209.58km²で、都市計画用途地域の現況は次のとおりである。

□ 富山高岡広域都市計画区域

令和7年3月31日現在

区 分	市 街 化 区 域														市街化 調 整 区 域	合 計
	第1種低 層住居専 用地域	第2種低 層住居専 用地域	第1種中 高層住居 専用地域	第2種中 高層住居 専用地域	第1種住 居地域	第2種住 居地域	準住居 地域	近 隣 商業地 域	田 園 住居地 域	商 業 地 域	準工業 地 域	工 業 地 域	工 業 専用地 域	小計		
面積(ha)	203	0	958	48	1,058	16	32	144	0	179	358	714	22	3,732	11,340	15,072
比率(%)	5.5	0	25.7	1.3	28.3	0.4	0.9	3.9	0	4.8	9.5	19.1	0.6	100	—	—

□ 福岡都市計画区域

令和7年3月31日現在

区 分	用 途 地 域														用途 無指 定地 域	都市 計画 区域 外	合 計
	第1種低 層住居専 用地域	第2種低 層住居専 用地域	第1種中 高層住居 専用地域	第2種中 高層住居 専用地域	第1種住 居地域	第2種住 居地域	準住居 地域	近 隣 商業地 域	田 園 住居地 域	商 業 地 域	準工業 地 域	工 業 地 域	工 業 専用地 域	小計			
面積(ha)	16	0	70	5.6	76	5	0	19	0	0	42	20	0	253	2,539	3,094	5,886
比率(%)	6.3	0	27.6	2.2	30.0	1.9	0	7.5	0	0	16.6	7.9	0	100	—	—	—

4 交 通

本市では、南北の交通軸には東海北陸自動車道と能越自動車道が整備され、東西の新しい交通軸には北陸新幹線が開業し、令和6年3月には敦賀まで延伸した。また、伏木富山が総合的拠点港に選定され、飛越能地域の玄関口、環日本海沿岸地域における交流拠点都市として、持続的な発展を目指している。

